様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月　１日現在

機関番号：１１１０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０７２０１９３
研究課題名（和文）中世盛期スペイン・エブロ川流域における城塞集落の形態生成論的研究

研究課題名（英文）A “Morphogenetic” Study of *Castra* in the Middle Ebro Valley from the Eleventh to the Thirteenth century

研究代表者
足立　孝（ADACHI TAKASHI）
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：９０３７７７６３

研究成果の概要（和文）：中世西欧封建社会の基礎細胞をなしたとされる城主支配圏と、それを地誌的に実体化する城塞集落の形成が、一般に「辺境」特有の征服・入植運動が大規模に展開したために本格的に発達しなかったと想定されてきたイベリア半島がじつは城塞を核として空間が大幅に再編成された城塞集落形成の先進地帯にほかならなかったことを、とくにエブロ川流域の所見を材料に具体的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This "morphogenetic" study of *castra* in the middle Ebro Valleys specifically reveals that the rural space was articulated to many small socio-political territories whose centers were castles or towers and the conquest and the resettlement in the Iberian frontiers did not interfere with the process of *incastellamento* but accelerated it systematically.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００９年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・西洋史
キーワード：中世史

１．研究開始当初の背景

ピエール・トゥベールがイタリア中部ラティウム地方を対象として抽出したいわゆるインカステラメント・モデル（領主主導下で推進された城塞集落の形成）は、一般に封建社会の基礎細胞とみなされてきた城主支配圏を地誌的・定住史的に実体化するものとして中世地中海農村史研究の最大の参照軸のひとつとなってきた。だが、イスラームと対峙するヨーロッパの典型的な「辺境」とみなされてきたイベリア半島は、大規模な征服・入植運動にともなう高い人的・社会的流動性ゆえに、インカステラメント・モデルに相当するような城塞集落が本格的に発達をみなかった地域と想定されてきた。それゆえ、とくにスペイン学界では、城塞が封建制の発展過程において果たした役割が極端に低く見積もられており、結果としてその役割を重視するフランス学界との間には、封建制成立のクロノロジーに200年にもおよぶ開きがあるといった状態であった。

２．研究の目的

前述のような学界動向に鑑み、本研究は、双方の地域のほぼ中間に位置し、11 世紀末から 12 世紀にかけて大規模な征服・入植運動を経験したエブロ川中流域を例にとり、同地域における城塞集落の析出と、それらの生成・変容過程を具体的にあとづけることによって、一般に「辺境」と称せられる空間がじつは城塞集落形成の先進地帯にほかならなかったことを明らかにするとともに、封建制の発展過程をめぐる理解の懸隔を解消しうる新たなモデルの構築を図ろうとするものであった。

３．研究の方法

本研究は、ヨーロッパの「辺境」とみなされてきたイベリア半島エブロ川中流域における城塞集落の生成・変容過程を具体的に明らかにすることにより、もともとイタリア中部の一地域の所見から抽出されたインカステラメント･モデルを、地中海諸地域のきわめて多様な所見を総合するうえで有用かつより柔軟なモデルとして再構築しようとするものである。それゆえ、この作業は、現存する、あるいはすでに廃村と化した幾つかの城塞集落を例にとって、それぞれの生成と発展（場合によっては廃絶）の諸相を個別にあとづけられればそれで事足りるというものではなく、むしろ城塞集落の比重を把握すべく、定住形態、定住地の布置と空間の編成様式、定住地相互の政治的・社会経済的諸関係といった、同河川流域の定住構造全体の正確な見取り図を描き出すことが必要不可欠であった。その具体的な手続きは以下のとおりである。

(1)文献史料の網羅的な蒐集・分析

本研究の作業の基礎をなすのはむろん、文献史料の網羅的蒐集と翻刻・分析である。まず征服・入植直後の定住分布および空間編成の具体相を知るうえで有用な、王権や聖俗貴族が発給した入植許可状やフエロ(特権状)については、ラモン・バランゲー4 世やペラ 1 世の国王文書や、テンプル騎士団や聖ヨハネ騎士団などの騎士団文書を筆頭に未刊行史料も数多く、これらについてはスペイン国立歴史文書館およびアラゴン連合王国文書館での文書閲覧と翻刻が遂行されなくてはならなかった。他方、それらが発給されなかった、またはそれらが伝来しない集落については、土地の贈与・売却を内容とする個別証書の網羅的蒐集と綿密な分析が必要となったが、その大半はおよそ刊行が進んでおらず、やはり国立歴史文書館およびアラゴン連合王国文書館、さらには地方文書館、わけてもウエスカ司教座聖堂教会文書館での集中的な文書蒐集・分析をつうじて、城塞集落とおぼしき定住地の所見が集積された。

(2)地名学・歴史地理学・考古学的所見の網羅的蒐集・分析

本研究の最大の難関は、廃絶して現存しない定住地、あるいはまとまった史料が不足していて現在地名との同定が困難な定住地、さらには史料には痕跡がないものの発掘遺構から城塞集落の形態をとっていたと想定される定住地のとりあつかいである。こうした廃村のとりあつかいについては、19 世紀の県別の定住地分布を百科全書的に網羅した地理学者パスクアル・マドスの手になる大著『地理学･統計学･歴史学辞典(1845～1850)』（全 16 巻，1849 - 1850 年）や中世の史料所見に基づき早い段階で廃絶した村落を含めてこれを補完した歴史家アントニオ・ウビエト・アルテータの『アラゴンの歴史：村落と廃村』(全 3 巻，1986 年)、さらに上アラゴン研究学会発行の発掘報告書『ボルスカン』をはじめとする発掘調査記録、古地図、スペイン国防省発行の軍用地図（CD-ROM 版）を用いて、城塞集落の分布データを綿密に補完した。

(3)城塞分布データベースの構築

作業が多岐にわたる本研究ではその円滑化・効率化を図るべく、系統的なデータベースが作成された。蒐集された文献史料については、内容や発給先による分類作業（文書の種別，法行為の当事者の分類，譲渡対象となった地目の種別，証人リストの作成など）を基礎として集落ごとの史料情報の整理が行われた。これにスキャナを使用して考古学知見、集落プラン、地籍図、航空写真を図像データとしてとりこみ，各集落のすべての情報が一括して管理される体制を構築し、領域横断的な本研究の作業に耐えうる網羅的な城塞集落分布図を作成した。

４．研究成果

(1)アンダルスと対峙し、11 世紀末から本格的に開始される大規模な征服・入植運動を経験したイベリア半島は、高い空間的・社会的流動性がたえず再生産されたために、中世ヨーロッパ封建社会の基礎細胞をなすとされる城主支配圏と、それを地誌的に具現化する城塞集落の形成(インカステラメント)が典型的に達成されなかった空間とみなされて久しい。だが、本研究であつかわれたエブロ川中流域では、まさしくイスラームの征服によって城塞を核とする空間組織が従来の空間組織を改変する形で系統的に創出されており、しかも征服に続く入植活動によって、比較的広大な城塞領域が城塞または塔の建設にともなう新たな定住拠点の生成により漸次分節化されるとともに、一城塞と一定住地が対応するような緊縮した空間ユニット

が生み出されてゆくプロセスが検出された。それゆえ、征服・入植が生み出した空間的・社会的流動性はインカステラメント現象を阻害するどころか、むしろその主動因となっていたといってよい。もとよりインカステラメントは農村の経済成長にともなう農村空間の再編成の産物として構想されているのであり、イベリア半島ではそれが征服と拡大という形をとったにすぎないのであって、これをイタリアや南フランスと本質的に異なる現象と捉えることはできないはずである。それどころか、城塞を核とする空間組織の生成は明らかに、「辺境」と称せられ、その特殊性ばかりが強調されてきたイベリア半島の方がはるかに先行しているのであり、ここから「辺境」概念そのものの見直しと並んで、本研究の析出した所見が地中海諸地域全体の封建社会形成のリズムを理解するうえで有用なモデルになりうるものと提唱したのである。

(2)(1)の研究成果をふまえ、イベリア半島全体を視野におさめた比較・総合研究を手がけることができた。ことにエブロ川からイベリア山地までの空間に相当する下アラゴンや、中央台地からグアディアーナ川流域までを覆うカスティーリャ・ラ・マンチャやエストレマドゥーラは、征服・入植にはじまる「辺境」の特殊性を体現する空間とみなされ、わけても貴族の進出が希薄であったことから典型的な封建制の不在が指摘されることさえあった地域である。だが、ここでもテンプル、聖ヨハネ、カラトラーバ、サンティアゴ、アルカンタラといった騎士団のエンコミエンダの下で城塞領域への空間の分節化が急速に進行したことが確認されたし、広大な属域を擁するテルエルやクエンカといった自治的な防備都市もまたそれ自体、空間的かつ機能的に城塞と区別されないどころか、都市共同体による支配の下でやはり城塞を核に空間が再編成されたことが明らかになったのである。それゆえ、城塞を組織原理とする空間の生成という意味では「辺境」の先進性を念頭に、そこから従来の「中心」とみなされてきた空間をあらためて照射する必要性がますます高まってきたといえよう。

(3)本研究の基礎をなす文献史料は、オリジナルであれコピーであれ、もっぱら教会や修道院に伝来している。これは、保管主体である教会や修道院が一切関与していない俗人文書であってもそうである。このように、俗人のオリジナル文書でさえ教会や修道院の文書庫に保管されて伝来しているとなれば、それら保管主体の利害が何らかの形で作用していると考えるのが自然であり、そうした管理の原則が明らかにならなくては本研究が目指す文献史料の網羅的蒐集・分析も望むべくもない。そこでまず、あえてオリジナル文書が豊富に伝来するスペイン北部カタルーニャのウルジェイ司教座聖堂教会文書を検討の対象としてとりあげ、それらを生成論的に分析することにより、司教座そのものが法行為に関与していない俗人文書の多数の伝来が、司教座と同参事会員を輩出する地域エリートとの密な社会関係のうえに成り立っていたことを実証的にあとづけた。ついで、とくにウエスカ司教座聖堂教会の文書庫に所蔵される 12 世紀から 13 世紀までのオリジナル文書およびカルチュレールの綿密な分析をつうじて、同司教座聖堂教会がいかなる系統の文書を 13 世紀後半に成立したカルチュレールに優先的に筆写・集成し、いかなる文書をオリジナル文書のまま系統立てて分類せずに 17 世紀の文書庫全体の整理に委ねたかを明らかにし、ここに特定の家系に基づく取捨選択が系統的に行われたことを明らかにしたのである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
①足立孝「ラテン・ヨーロッパ辺境における入植・定住形態・空間組織」『ヨーロッパ中世文明』ミネルヴァ書房、査読有、2012 年刊行決定。
②Takashi Adachi, Charters, Cartulary and Family Linage Re-created: A Genetic Study of the Cathedral Archive of Huesca from the Twelfth to the Mid-Thirteenth Century, *Configuration du texte en histoire,* 査読無, University of Nagoya, 2012, pp. 95-107.
③足立孝「9-11 世紀ウルジェイ司教座聖堂教会文書の生成論―司教座文書からイエ文書へ、イエ文書から司教座文書へ」『西洋中世研究』査読有、第 1 号、2009 年、87-105 頁。
④足立孝「遍在する「辺境」―スペインからみた紀元千年―［下］」『人文社会論叢（人文科学篇）』査読無、22 号、2009 年、43-62 頁。
⑤足立孝「遍在する「辺境」―スペインからみた紀元千年―［上］」『人文社会論叢（人文科学篇）』査読無、21 号、2009 年、59-75 頁。

〔学会発表〕（計３件）
① Takashi Adachi, Charters, Cartulary and Family Linage Re-created: A Genetic Study of the Cathedral Archive of Huesca from the Twelfth to the Mid-Thirteenth Century, *Configuration du texte en histoire,* University of Nagoya, September 1-2, 2011.
②足立孝「遍在する「辺境」―ガリシアからアルプス山脈まで―」西洋中世学会若手支援

セミナー（京都女子大学、2009 年 10 月 10 日）
③足立孝「遍在する「辺境」―スペインからみた中世ヨーロッパ―」第 30 回スペイン史学会大会（駒澤大学、2008 年 10 月 26 日）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
足立　孝（ADACHI TAKASHI）
弘前大学・人文学部・准教授
研究者番号：90377763

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：